



旭山から消えた(！?)植物

ここに紹介する植物は、種としては珍しくはないですが、かつて旭山では1、2か所だけに継続的に出ていたものが近年では見られなくなったものです。

◆ニシキゴロモ (シソ科) 写真①

森の家の近くに数か所、4、5年前まで出ていました。いずれも道の脇の草刈りされる場所で、条件次第ではまた出てくる可能性があります。



◆ツクバネソウ (シュロソウ科) ②

都市環境林に1か所数株が出続けていましたが、昨年から見られなくなりました。林床で木々の葉がのびて日当たりがよくなくなったためと考えられます。



◆エゾノタチツボスミレ (スミレ科) ③

栗の木デッキ付近に数株ありましたが、笹が伸びて今年は見られませんでした。



◆ツボスミレ (スミレ科) ④

藻岩山登山道入り口付近と学びの森に小群落がありましたが、こちらも笹で日当たりが悪くなり見られなくなりました。比較的多かったのですが。



◆オトコエシ (オミナエシ科) ⑤

ポートランドの森付近に一株だけ出ていましたが、3年前から見られていません。元々林内の暗い場所ではありました。

◆アキカラマツ (キンポウゲ科) ⑥ 開花前、蛾の幼虫がたくさんついている状態

風の丘近くに2株ありましたが、3年前、キタエグリバという蛾の幼虫が大量発生し、葉を食べつくしました。それでも一昨年、去年と花は咲きましたが、昨年も蛾の幼虫がつき、今年は株そのものが見られていません。



◆コオニユリ (ユリ科)

20年近く前、橙色のコオニユリがミュンヘンの森付近で咲いていましたが、もう10年以上見ていません。コオニユリは元々北海道には自生していませんが、その後の再整備の改修でなくなったようです。



◎ウメガサソウは大丈夫か？

遊具広場で今年はまだ咲いていましたが、今年7月に行くと、笹の進出をとめないとなくなってしまいかもという状況でした。

その他、エゾミソハギやヤナギランのように何年かに一度出たり、イチヤクソウやネジバナのように毎年違う場所に出てくるなど、植物も環境の変化により「動いて」いるのです。

ここに紹介した花を旭山で見つけた方はぜひ森の家までご一報を！

レストハウスだより 2020年8月

コロナ禍の中、6月のオープンから2か月が経ちました。レストハウスはオープンエアでの束の間の解放感を得るには絶好のロケーションです。好天の続く中、駐車場は多くの車両が次々と出入りする様子がレストハウスからも見て取れます。

売店では、外側の窓口からの注文が多く、休憩所のテーブルを利用される方は少なく、コロナ禍の中、皆さんが身につけられた感染回避の安全意識の現れと観察しています。夏も本格化する季節、熱中症に注意しつつ緑深い散策路や展望広場付近からの遠眺をお楽しみください。

売店からは、かき氷(イチゴ、メロン、ブルーハワイ、抹茶、カルピス) 350円。ソフトアイス(バニラ、ブルーベリー、抹茶、沖縄黒糖、沖縄塩バニラ) 350円が今月の一押しです。よろしくお願いいたします。

ソフトアイス・沖縄黒糖→



旭山野鳥メモ⑱ ハシブトガラス

ハシブトガラス Jungle Crow *Corvus macrorhynchos* スズメ目カラス科
北海道をはじめ日本全国で留鳥。あまりにもおなじみの鳥で通称「ブト」。
英名「ジャングル」のごとく元は森林にいた鳥が、今や都会の鳥の代表格。
詳しい生態については本が多数出ているのでそちらをお読みくだされば。
今年は園内に巣を作らなかったようで、幼鳥が巣立つ6月にブトに襲われた
という話は聞かなかった。しかし毎年6月は攻撃に要注意。



◆今年生まれのハシブトガラス幼鳥◆

ブトはタカ類が飛んでいると数羽で近寄って「カアカア」騒ぐ。「モビング」と
呼ばれるこの行動、時には相手に体を絡ませることもあるが、本気で襲った
り追い立てたりというより好奇心から。追われたタカ類はうるさくて逃げるが、稀にカラスが捕食されることも。
キタキツネが現れると上空に数羽が集まって騒ぐこともあるし、エゾリスを飛んで追いかけて回すこともある。
しかし、カラスが数羽で鳴きながら飛んでいる時は決して無視せず、要注目、タカ類がいることがある、とい
うこと。「なんだカラスか」を脱したとき、バードウォッチャー初心者を抜け出したと言えるのかもしれない。
ハシブトガラスは、周りで起こっているいろいろなことを教えてくれる便利な鳥なのである。
そしてもうひとつ。ハシブトガラスは野鳥観察会の最後「鳥合わせ」でも便利な鳥。

8月の野鳥トピックス

野鳥についての詳しい情報はホームページの野鳥情報をご覧ください、森の家までおたずねください。

☆とりのようちえん＝カラス類やアカゲラの幼鳥は今月も見られます。

★アオバト＝7月中も声はよく聞かれましたがそろそろ聞かなくなります。

★オオルリ＝7月下旬から幼鳥の観察情報が増えました。

★キビタキ＝7月末に囀りしなくなりましたが、まだ時々見られます。

★コサメビタキ＝7月中旬に幼鳥が巣立ってから観察情報が多くなりました。

★ウグイス＝7月末に囀りをやめました、秋になると「ヂッ チッ」という
地鳴きとともに笹藪で姿を見る機会が多くなります。

★クロツグミ＝やはり7月下旬に囀りをやめましたが見られます。

★センダイムシクイ＝お盆過ぎに南に渡っていきなくなります。「チヨチヨビー」が聞けるのもあとわずか。

★シマエナガ＝7月も残念ながら観察情報がほとんどありませんでした。どこに行っているのでしょうか？



コサメビタキの幼鳥

旭山生き物ミニ図鑑 2020年8月 8月に見られる生きもの



エゾリス



ルリボシヤンマ(8月下旬以降)



ルリボシカミキリ



エゾゼミ 鳴き声「ヴィーン」



ウラギンシジギョウモン



ヌスビトハギ(ひつつき)



ヤナギタンポポ



ナワシロイチゴの実(木いちご)



公式サイト

「アカゲラ通信」 第82号 2020(令和2)年8月7日発行

発行:(公財) 札幌市公園緑化協会 旭山記念公園管理事務所

住所:〒064-0943 北海道札幌市中央区界川4丁目

連絡先:電話 011-200-0311(土・日・祝日10時~16時) FAX 011-200-0351

<http://www.sapporo-park.or.jp/asahi-yama/>